

二本松青年海外協力隊訓練所

ADATARA

あ だ た ら

開所当時



引用元: 女ロスロード1995年6月号

現在



特集

Contents

祝20周年！二本松訓練所ヒストリー

P5 イベントレポート・VOICE

P6 現地レポート「From コスタリカ」

祝20周年!

二本松訓練所ヒストリー

二本松青年海外協力隊訓練所が2014年12月をもって開所20周年を迎えます。今号では、この20年間の訓練所の歩みを振り返ります。また特別企画として、初代の訓練総括、初代の隊員、現在の訓練所長の特別対談をお届けします。

1994年12月 訓練所設立



引用元：クロスロード1995年2月号

二本松市の岳温泉の少し上、安達太良連峰のふもとの磐梯朝日国立公園の中に、第3番目の訓練所として「青年海外協力隊二本松訓練所」が平成6年12月27日に竣工となりました。智恵子抄に出てくる“ほんとうの空”の下、思う存分訓練に励むことができる明るく開放的なデザインの訓練所となりました。

～ 立ち上げ時の訓練所スタッフと完成したばかりの二本松訓練所 ～

1995年1月 平成6年度第3次隊訓練開始



写真提供者：今松電一様(6-3/ケニア/電子工学)

1月5日、アジア地域派遣14か国99名、アフリカ地域8か国83名の計182名が初めての訓練生として入所しました。当時は男性124名、女性58名と男性が圧倒的に多かったのは現在とは大きく違う点です。また中東諸国に派遣になる訓練生は、当時はまだ駒ヶ根訓練所で研修を受けていました。

～ 平成6年度第3次隊入所式 ～

1995年10月 皇太子、皇太子妃殿下来所



～ 広報展示室の楽器を演奏されました ～

1965年に青年海外協力隊の派遣事業が始まって以来、天皇皇后両陛下(当時は皇太子同妃両殿下)は、協力隊事業に強い関心をお寄せになっており、初代隊員より、出発前に直接お目にかかる機会をいただき、激励のお言葉を賜っています。

協力隊事業発足30周年の節目を迎えた1995年10月29日には、皇太子、皇太子妃殿下雅子様が訓練所に来所され、当時の訓練生たち(平成7年度第2次隊)を激励されました。また、その時に植樹された桜の木は、現在は大きく育ち、毎年春になると綺麗な花を咲かせ訓練生を優しく見守っています。

1996年10月 研修員受け入れ事業、福島県内のJICAボランティア募集業務開始



JICAでは、開発途上国の国づくりの中心となる人材を育成する目的で、各国からの研修員を受入れています。この年からJICA二本松でも研修員受け入れ事業を開始いたしました。

医療機器を取り扱う郡山市の(株)メディサンでは、約30年に渡り医療器材の保守・管理技術指導を、そして白河市の(独法)家畜改良センターでは、なんと約50年に渡り研修員に農業技術の指導を行っています。

また、この年から県内でのJICAボランティア募集事業も始まり、以後毎年春と秋の募集期には県内各地で募集説明会を開催しています。

～ (株)メディサンで指導を受ける研修員 ～

1996年11月 無事カエル寄贈



訓練所開所の翌年、にほんまつ地球市民の会より“無事カエル”が寄贈されました。今では二本松訓練所のシンボルとして訓練生を応援しています。

にほんまつ地球市民の会は、訓練所の設立を機に市民と訓練生の交流を目的に、当時の大河内鷹市長を会長に1994年11月に発足となりました。

～ 訓練所の入口で訓練生を見守る無事カエル ～

2000年5月 駒ヶ根市と二本松市が友好都市協定



～ 日本アルプスに囲まれた自然豊かな駒ヶ根訓練所 ～

青年海外協力隊訓練所のある都市同士として、交流を深めてきた長野県駒ヶ根市と二本松市が友好都市協定を締結しました。また、5年後の2005年には「災害時の相互応援に関する協定」を締結しており、2011年の東日本大震災発生時には二本松市は駒ヶ根市より多大なる支援を頂きました。震災直後には給水タンク車の派遣をはじめ、毛布や食料・衣類等を提供していただき、避難所をサポートのため駒ヶ根市の職員・保健師の人的支援をいただきました。また、震災後には、放射線を心配し外遊びを控えている子どもたちのリフレッシュのため、二本松の子どもたちが駒ヶ根市に招待され思いっきり遊ぶことができました。

2007年10月 シニア海外ボランティア合同訓練開始



これまでシニア海外ボランティアの訓練は、首都圏のJICA施設で行われていましたが、派遣後、任地で協力隊とシニア海外ボランティアが協力することによってより良い活動になるということを期待して、合同の合宿形式での訓練をすることになりました。

2014年現在、シニア海外ボランティアの訓練期間は、青年海外協力隊の半分の35日間です。訓練を終えてから出発までは、自宅で語学のウェブレッスンを受講しながら、派遣に備えます。

～ 平成26年度第2次隊シニア海外ボランティア派遣前訓練修了式 ～

2010年11月 事業仕分けと訓練所

二本松訓練所始まって以来のピンチが訪れます。行政刷新会議によって実施された事業仕分けの対象となり、二本松訓練所の廃止・駒ヶ根訓練所との統合案が浮上りました。しかし、福島県や二本松市がこの統合案の撤回を求めてくださりました。こうして多くの関係者の皆様からのご支援があったおかげで、これまで多くの訓練生を生み出した訓練所は、その意義を理解していただき存続することができました。



～ キッズルームの様子 ～

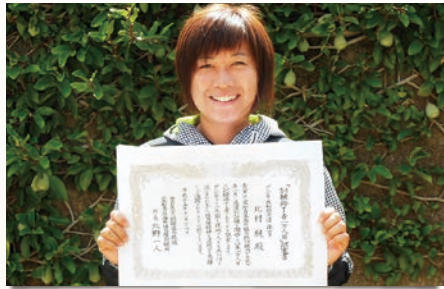
事業仕分けの翌年、更なるピンチが訓練所を襲いました。2011年3月11日は、平成22年度第4次隊の修了式のその日でした。無事修了証を手にした協力隊員たちは、それぞれの自宅へ向け帰路についたところで被災しました。

この震災により二本松訓練所は一時訓練業務を休止し、県の要請を受け避難所としての運営を開始しました。訓練所では、福島県、二本松市、JICAの三者が運営に携わり、その中には青年海外協力隊員の姿も見られ、避難中の子どもたちに勉強を教える、高齢者のマッサージに励むなど、困難な状況下においても自分ができることを精いっぱい行いました。

こうして二本松訓練所では、避難所を閉じる2011年の7月末までの間に最大で453名を受けられました。(定員は204名)



～ 協力隊員によるマッサージ ～



～ 修了者1万人目の認定書を受け取る北村さん(ザンビアにて) ～

平成25年度第2次隊の修了をもって、訓練所の卒業生が1万人を突破しました。記念すべき1万人目の卒業生は、ザンビアにて体育指導で活躍する北村純さんです。北村さんは「訓練中の生活を振り返った時、真っ先に頭に浮かぶのは訓練所で出会った仲間の顔です。様々な職種・年齢・バックグラウンドを持った人たちがいて、他の訓練生たちとの交流は、私に大きな刺激を与えてくれました。隊員となった今も、訓練所で知り合った仲間は私の心の支えとなっています。」と訓練所での仲間との出会いに感謝しています。



～ 歴代所長も集結した1万人記念式典 ～

修了者1万人突破の記念式典および、朝河貫一博士に因んだ朝河桜の記念碑の除幕式と記念講演を行いました。

式典には地元・二本松市の三保恵一市長(当時)もお祝いに駆けつけていただき、自身が会長を務める「にほんまつ地球市民の会」が訓練所に「朝河桜」を贈ったことについて、朝河貫一博士のように勉学に励み、世界平和のために活躍してほしいという思いが込められていると、協力隊への期待を述べられました。

また式典には歴代所長がお祝いに駆けつけ一堂に会し、皆さん久しぶりの二本松訓練所を懐かしんでいました



みなさんのご支援を受け、2014年12月27日、ついに二本松訓練所は“成人の日”を迎えます。これからも世界に羽ばたく若者の拠点として、そして地域に開かれた国際協力の拠点として成長してまいります。

～ 二本松訓練所 外観(2014) ～

20周年を記念して、二本松訓練所の立ち上げ時からご尽力いただいた初代の訓練総括・津川智明さんと、二本松訓練所の一期生として入所した平成6年度第3次隊を代表して身玉山宗三郎さんに当時を振り返っていただきました

初代訓練総括主任

津川智明さん

初代隊員(6-3/インドネシア/野菜)

身玉山宗三郎さん

(旧姓・河田)

現二本松訓練所長

北野一人



(左から)北野所長、身玉山さん、津川さん

北野:まずは、今、訓練所を見て回りましたが感想はいかがですか?

身玉山:外装はあまり変化がないのですが、公衆電話がなくなっていましたし、スタッフや訓練生自身が講師となる自主講座を行うようになったことを知りました。図書室の蔵書も増えましたし、何より隊員機関誌のグレードが上がっていることに驚きました。

津川:建物自体はあまり変わっていないのですが、やはり訓練所の中を歩いていると当時のことが思い出されます。外を歩いている候補者と一緒にランニングしたことを思い出しますね。私は平成6年度第3次隊から5年間、この訓練所に居たのですが、いろんなところで当時の訓練生たちと再会し向こうから声をかけてくれるんです。協力隊はここ二本松から始まるわけだから、やりがいのあるこの仕事ができて良かったと改めて思います。

北野:最初の訓練生・平成6年度第3次隊を1月5日に迎え入れるわけですが、12月27日に竣工したばかりでほとんど準備期間が無い中で、どんな状況だったのですか?

津川:やっと所内に備品が入ったばかりでスタッフも落ち着いていない状況でしたね。ただ、敷地内にプレハブを建てて、その中で9月くらいから準備は開始していました。施設案内の表示をつけるとか、どういう名前にするか、本を選ぶとか。でも、本当に1月5日から候補者を受け入れられるのか不安でした。

身玉山:“一緒に作り上げて行く”という感じがありましたよね。当時はまだ水漏れなどちょっとした設備の不備もありましたし。

津川:ただね、施設はできたばかりで不慣れなところがあつたけれど、新しい訓練所ということで、新しい発想で訓練をやっていきたくて思いがありました。既に広尾と駒ヶ根に訓練所がありました両訓練所と全く同じことをやろうとは思っていませんでした。例えば、二本松訓練所では初めて個室を採用しました。

北野:当時はおそらく広尾も駒ヶ根もまだ2人部屋でしたよね。

津川:個室にする代わりにみんなで集まれる場所が必要だということになり、各階に談話室を置く非常に良いデザインをしていただきました。それから、男女をあえて分けることはしませんでした。大人としてふさわしい節度をもって行動することが当然だと思っていたので。結果として色々あつたけれども、候補生のモラルに任せたのはよかったかなと思っています。

北野:このことについて訓練生としては何か意識しましたか?

身玉山:個室になるというのは聞いていました。私は八ヶ岳で農業の訓練を受けていたのですが、そこでは3人部屋で暗くなった部屋で寝ながら色々語

り明かすこともあったので正直に言ううちちょっと寂しい気がしました。ただ、談話室があつたおかげでそこに自然と人が集まっていたし、今思えば、思い出が一番詰まっている場所ですね。

北野:20年経っても訓練生はみんな談話室で語っています。今でも、男女は同じフロアですが、これがいい緊張感、マナーを引き出していると思います。これは二本松訓練所のひとつの伝統ですね。津川さんは、当時の訓練の中で印象に残るハプニングやエピソードはありますか?

津川:訓練の中で安達太良山登山をしたことや、オリエンテーリングや所外活動で市内を回って二本松市の方々と接したことが思い出深いですね。

北野:身玉山さんは、訓練のプログラムの中で印象に残っていることはありますか?

身玉山:所外活動で老人ホームを訪れたことですかね。朝の集いのこともよく覚えていますが、当時の第3次隊は冬の時期の訓練だったということもあり体操の時間が短かったですね。あとはやはり、訓練所と言えば語学というイメージです。



思い出話に花を咲かせる身玉山さんと津川さん

北野:実施側としてはどういった訓練をしていましたか?

津川:メインは語学だけど、講座ももちろん大事。あとはやっぱり、所外活動。当時は所外活動を訓練中に3回実施していました。農家だとか障害者施設だとか訓練生には自分の専門外のところに行くように言っていました。これまでやってきたことと違うことを経験するというところで、ある意味のショックを受けていましたが、訓練でそういう経験ができるのは非常にいいことだったと思います。

北野:訓練期間が短くなり、所外活動は3回から2回になりましたが重要なプログラムですね。相手の立場になって活動しないといけないという、その心を磨いてほしいです。震災後は仮設住宅でも活動を行っていますが、訓練生たちは良いコミュニケーションをとってくれて、現地に行っても仮設住宅に絵はがきを送ってくれ、仮設住宅の方も非常に喜んでいて。

津川:そうそう。任期を終えて帰国して、二本松に帰って来たときに行く場所って訓練所じゃないんですよ。所外活動に行ったところに行ってお礼を言いたい、無事に帰ってきたと報告したいという人が結構居るんです。だから、そういう意味では、地元とのつながりは大事なんです。

北野:身玉山さんのインドネシアでの活動についても簡単に教えてください。

身玉山:インドネシアでは、農民の収入向上のために、これまで行われてこなかった乾期のメロン栽培、雨期の唐辛子栽培を行いました。

北野:しっかりインドネシアで活動されてきたわけですが、最後に、協力隊に参加して得たことや20年前のこの訓練がどう生きていたか教えてください。

身玉山:協力隊の活動後もずっとインドネシアに関わってきました。だから、協力隊の経験がなかったら今の自分はいないわけです。そして、この訓練所で教わったこと、経験したことが協力隊活動で活かされたからこそ、今までインドネシアに関わってこれたのだと感じています。

津川さん、身玉山さん、当時の貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました!

EVENT REPORT

菊むすめが 一日訓練所長に就任

イベント
レポート1



菊むすめ・佐野あす実さんを囲む訓練生(10月17日)

二本松市の県立霞ヶ城公園で開幕中の「第60回二本松の菊人形」をPRする菊むすめが二本松青年海外協力隊訓練所に来所し「一日訓練所長」を勤めました。

今回、一日訓練所長を務めたのは、福島大学4年生の佐野あす実さん。佐野さんは、「所長講話」と題して、平成26年度第3次隊の訓練生たちに菊人形の見どころなどをPRし、二本松クイズを通して訓練生たちと交流しました。そして講話の最後には、なんと佐野さん自身も協力隊参加予定者であることが発表されました。佐野さんは来年4月から駒ヶ根訓練所で訓練を受け、アフリカのセネガルへ派遣予定です。

平成26年度第3次隊の訓練は、42都道府県から147名の訓練生が集まっています。菊むすめ・佐野さんのPRにより全国各地から集まった訓練生たちが二本松の伝統ある祭典に足を運ぶことで、観光振興の一助となることを期待します。

福島・フィリピン こころの復興イベント開催

イベント
レポート2



元競泳選手でオリンピックメダリスト・田中雅美さんのトークショー(10月26日)

JICA二本松は昨年11月に甚大な台風被害を被ったフィリピンを支援すべく福島テレビと共催で「福島・フィリピンこころの復興イベント」を実施しました。

第一部では、発災直後、緊急援助隊医療チームとして日本からまず初めに被災地入りし初期の医療支援に取り組んだ岩上憲三さん(JICA青年海外協力隊事務局 次長)の講演が行われました。

第二部では、田中雅美さんをゲストに迎え「支え合い」をテーマにトークショーが行われました。田中さんは、現役引退後に国際協力活動にも精力的に取り組んでおり、「まず知ること、そして伝えること」が大切なのだとか参加者に訴えました。

第三部は、二本松訓練所で人気の企画「おいしく学ぶ、世界の暮らし」のフィリピン編を開催。アドボをはじめとするフィリピン料理を味わいながら、現地の生活について学びました。

イベントの最後にはチャリティバザーが行われ、JICAブースでは、フィリピンをはじめとする世界の民芸品などが販売され、寄付金等と合わせて約70,000円の収益を生みました。これらの収益金は全てFNSチャリティキャンペーン事務所を通じ、フィリピンで活動をするユニセフの活動に使われます。

VOICE ボイス

このコーナーでは日頃よりJICA二本松を応援してくださっている県内の皆様にインタビューし、JICAボランティアとのエピソードや期待・エールをうかがっていきます。

今回は、にほんまつ地球市民の会・初代理事長の佐藤壮一郎さんにお話をうかがいます。

にほんまつ地球市民の会
初代理事長 佐藤 壮一郎さん



一にほんまつ地球市民の会の立ち上げの経緯について教えてください。

訓練所が出来るといことで、当時の大河内二本松市長から協力隊について調べてくれという話がありました。それまでJICAや協力隊のことは全く分らなかったもので、広尾訓練所や駒ヶ根訓練所に見学に行ったり二本松出身の隊員の方の話を聞いたりして協力隊が一体なんなのかと勉強しました。そうした中で、国を挙げての事業なのだ認識し、地元に戻り青年団体に呼びかけて「にほんまつ地球市民の会」を結成しました。

一平成6年度第3次隊から二本松駅でお出迎えをされていますよね?

高い志を持った全国の青年たちがこの二本松に来る一番初めの場所が二本松駅であろうということ、これ

からの訓練に不安でいっぱいの人々をあたたく歓迎し「あなたたちのことを二本松市民は応援しているのだよ」という気持ちを伝えることが、私たちにできることだと思っています。初代の隊員から一度も欠かさずお迎えしています。

一訓練所の中庭の朝河桜はにほんまつ地球市民の会からの贈り物ですね?

朝河貫一先生は二本松の出身。戦争をしてはいけないと訴え続けた方が、ここ二本松の出身だということを訓練生の方には知って欲しいのです。青年海外協力隊の方々は一ひとりひとりが平和大使ですから、まさにそういう朝河先生の思いを心にこめてもらいたいと思い植樹しました。

一訓練生・隊員との交流の中で、印象的な出来事は何かありますか?

タイ北部のタロ村で活動する須賀川市出身の隊員が、遊具施設がほしいということにほんまつ地球市民の会で支援したことがあります。完成した頃に実際に二本松市として視察に行ったときに衝撃を覚えました。少数民族の村で、最低限のモノで暮らしているうら若き女性が頑張っている姿は、涙なしでは見ることができま

せんでした。ちょうど土砂降りで行くまでが大変だったのですが、やっと着いた時にはタロ村の村長さんがインスタントラーメンを用意してくださって歓迎してくださったことにも感動しました。

一最後に、協力隊にエールをお願いします!

一番はじめの候補生たちに「頑張って!」と言おうと思っていたんです。そのときに、スタッフの方に「訓練生はパンパンに頑張っているのだから、頑張ってと言われると余計に頑張ってしまうので」という話をされたことがあります。そのときに、既に頑張っている人に頑張れというのは酷なことなのだと思います。だから、「自分のあるがまを出してきてください」ということだけを伝えたいと思います。あるがままの自分を出して活躍してください。



20周年を迎える訓練所にて

佐藤さん、訓練生への期待や熱い思いが詰まったお話をありがとうございました!

JICA ボランティア

現地レポート from Costa Rica

福島県出身



かとう なおき
加藤 直樹さん
平成25年度第1次隊
出身地：福島市
派遣国：コスタリカ
職 種：野球



▲大学の体育学科の生徒たちに野球の講義

オッラ！コモエスタンミーゴス？（こんにちは！みんな元気かい？）このように誰にでも明るく挨拶が飛び交う中米の国コスタリカが自分の活動する国です。活動は「野球」をもっともっと盛んにすることです。少し自分の活動を紹介しましょう。

- ① 学校体育への野球導入の推進
- ② 配属先野球リーグ運営の支援と少年野球指導
- ③ 野球指導書の西訳

コスタリカでの一番のスポーツはサッカーです。小学校の体育でもサッカーばかり…なんてこともめずらしくありません。そこでまずは野球を知ってもらうために小学校を巡回したり、野球の大会を企画したりしています。そして野球が好きな子供たちのために学校とは別にリーグ戦があり、その子供たちを指導したり、リーグ戦がない時期は国際大会参加のためチームを結成し指導したりしています。またスポーツの普及には指導者の育成も大切です。大人でも野球経験者もそうでない人にも興味を持ってもらうために日本の野球指導書をスペイン語に翻訳する活動をしています。



▲小学生の子供たちと準備体操



▲自分自身も大人のリーグ戦でプレイ中

さて、コスタリカは平和な国だと言われて

いますが近年は麻薬や青少年犯罪が大きな問題となっています。元気いっぱいエネルギーを乗いことにはなく思いきり体を動かすことに使えたら、きっと子供たちの将来はよりよいものになるでしょう。キャッチボールを通して子供たちの将来、ひいてはコスタリカの将来にまで貢献する！

そういう意気込みで今後も頑張ってい

きたいと思います。



▲バットの持ち方指導中



▲一般的なコスタリカ料理。ご飯、肉、豆、サラタ、プラタノ(バナナのようなもの)が一皿に乗っている。



▲コスタリカはキリスト教の国。クリスマスのごちそう。



▲朝市



福島に
ゆかりのある

JICAボランティア

平成26年度第3次隊(27年1月出発)

①出身地 ②派遣予定国 ③職種



青年海外協力隊
おおこうし ゆうき
大河内 悠貴さん

- ①伊達市
- ②タンザニア
- ③PCインストラクター

パスポートを持っておらず、英会話ができればいいのに選考に合格してしまいました。せっかく海外を知らない状態なので、先入観を持たずに活動に臨みたいと思います。「どんなに有用でも隊員の帰国後に現地の人だけで持続可能でなければその活動の意義は少ない」という指揮官の言葉を忘れずに活動に励みます。



青年海外協力隊
すすき こうじ
鈴木 公治さん

- ①会津若松市
- ②ハブアニューギニア
- ③理科教育

私は昔から国際協力というものに興味を抱いていて、大学卒業を機に青年海外協力隊に参加することにしました。国際協力やボランティアについて全く知らないという人はいないと思います。自分も人以上のことは知りませんでした。よく聞かれますが、協力隊に参加する理由は、参加しない理由が自分には無かったからです。



青年海外協力隊
やべ しょうたろう
矢部 翔太郎さん

- ①会津若松市
- ②タンザニア
- ③体育

『東日本大震災』この震災でより自分が福島県で生まれ育ったと自覚し、もっと大切にしていきたいと再認識出来ました。この大好きな地の成長ぶりを世界へと伝えていきたいです。これからは活動範囲を世界へと変えて青年海外協力隊としてタンザニアの人々と共に助け合い、より成長できれば良いなと感じています。

福島県出身 ボランティア

市町村別
派遣中隊員数



2014年10月31日現在 合計派遣中30名/累計673名

青年海外協力隊			日系社会青年ボランティア		
派遣中	28	累計 614	派遣中	1	累計 10
シニア海外ボランティア			日系社会シニアボランティア		
派遣中	1	累計 44	派遣中	0	累計 5

参加者募集!

ふくしまグローバルセミナー2014

～クリスマスはJICA二本松で世界を学ぼう～

毎年恒例の“グロセミ”が今年も開催されます。今年は、来年5月にいわき市で開催される「太平洋・島サミット」にちなんで、大洋州諸島にまつわる講座や講師が多数ラインナップされています。お友達や同僚、ご家族でお誘いあわせの上、ご参加ください。

日時	2014年 12月20日(土)～21日(日) 10:30～ ～11:40
場所	JICA二本松
募集人数	高校生以上 150名
参加費用	1泊2日 4,000円 / 20日のみ 1,000円
募集締切	12月1日(月) 必着
問い合わせ	福島県国際課 024-521-7183

※JICA二本松ホームページからも詳細をご確認いただけます。
「イベント情報」をご覧ください。

11月～1月 イベントカレンダー

- 11月4日(土) JICAボランティア秋募集締切
- 12日(土) 26年度第3次隊 シニア海外ボランティア修了式
- 15日(土) 二本松訓練所 設立20周年記念式典
- 12月17日(土) 26年度第3次隊 青年海外協力隊修了式
- 20日(土) 21日(日) ふくしまグローバルセミナー2014
- 1月17日(土) JICAボランティア帰国報告会・留守家族連絡会

ラジオ番組のご案内

JICA二本松 公式Facebook



これ、なんの訓練? 答えはJICA二本松のFacebookページをご覧ください!
(2014年10月21日投稿)

ほぼ毎日、更新中!
<https://www.facebook.com/jicantc>

ふくしまFM

キミノチカラ、海を越えて
～青年海外協力隊の道～



世界各国で活躍した隊員をゲストに迎え、参加の動機から任地での活動、帰国後のお話を2週に渡ってたっぷり聞かれます。

毎週土曜 / 8:30～8:55

FM Mot.Com

世界も、自分も、変えるラジオ



二本松訓練所の訓練生がつくる番組です。熱い想いが詰まった60分!

第2木曜 / 13:00～14:00
(再放送: 第3木曜 / 13:00～14:00)

アクセス



独立行政法人国際協力機構
二本松青年海外協力隊訓練所
〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2
Tel: 0243-24-3200 Fax: 0243-24-3214

●本誌に関するお問い合わせ
JICA福島デスク 担当: 八巻(やまき) Tel: 024-524-1315 Fax: 024-524-8308
〒960-8103 福島市舟場町2-1 (公財) 福島県国際交流協会内